

第3回有識者会議 有識者意見とその対応

No.	資料	項目	有識者意見	対応	対応詳細
1	資料2	未来像と交通課題の整理方法について	5つの未来像は、バランスが取れているように感じるものの、「歴史の発展」や「事故や不安がない」といった表現が具体的に何を指すのか精査が必要である。	資料修正	未来像の文章について、より理解しやすい文章へ今後修正する。
2	資料2	未来像と交通課題の整理方法について	資料2の3ページで示される未来像と交通システムの課題の関係表について、そもそも交通システムの課題の8項目が適切かどうか精査するとともに、違いを明確にする必要があると考える。	進め方に反映	交通システムの8項目について、今後実施する県民参画で得られた課題も踏まえて、内容を精査する。
3	資料2	未来像と交通課題の整理方法について	未来像と交通システムの関係を示す表のマスをすべて埋めることが求めているわけではないように感じ、結果的に対角線しか埋まらない可能性もあると考える。どのような意図でこの表を活用し、何をアウトプットしたいのかを教えてください。	進め方に反映	未来像と交通システムの課題の関係を表す表の扱い方も踏まえて、未来像と課題の関係を見直す。
4	資料2	未来像と交通課題の整理方法について	人の欲求段階(マズローの法則)の観点から見ると、自己実現の前提として安全・安心や命を守ることが重要であり、交通においても安全は根幹に位置づけるべきである。普天間周辺の事故の多さや道路標識の見えにくさ等も踏まえ、渋滞解消や交通空白解消とあわせて、安全の位置づけを検討いただきたい。	進め方に反映	渋滞解消や交通空白解のみに注力するのではなく、安全の視点も軽視することなく取り扱う。
5	資料2	地域別検討の進め方について	北部地域について、名護市のような都市部と国頭村のような地方部では状況が全く異なる。北部を一括りにすべきではないのではないか。	進め方に反映	県民参画を踏まえた地域ごとの交通のあり方検討の際の地域分けの際に留意する。
6	資料2	地域別検討の進め方について	離島のエリア分けについて、宮古島と石垣島で公共交通の成熟度が異なると共に、離島によっては公共交通がない離島もあるため、分けて整理していただきたい。	進め方に反映	No.5に同じ
7	資料2	地域別検討の進め方について	中南部圏域の区分については、那覇からの直線距離だけでなく、各地域内の拠点との関係や、那覇までの所要時間といった時間距離も踏まえ、区分の考え方や見せ方を工夫する必要がある。	進め方に反映	No.5に同じ
8	資料2	ワークショップ・意見聴取の設計について	ステップ2は地域単位の検討であることから、地域の中の「どこで」「いつ」「どんな人が」移動において課題があるのかを聞いた方が良いのではないかと。	進め方に反映	参加者が抱える移動に関する課題の背景にある地域の移動環境を深掘できるように県民ワークショップの設計を行う。
9	資料2	ワークショップ・意見聴取の設計について	アウトプットも表形式ではなく、地図へのマッピング形式の方が、参加者も生活実感に即して意見をしやすいのではないかと。	進め方に反映	市町村職員ワークショップ・県民ワークショップにおいて地図を用いた交通のあり方検討を行う。
10	資料2	ワークショップ・意見聴取の設計について	ワークショップの実施にあたっては、パーソナリティ調査や関連業務のデータを活用することが有効であり、どのようなデータを参加者に提示するのか確認したい。また、既存データから見える地域の現状や課題を事前に整理して参加者へ示し、それを踏まえて地域の実情や認識を確認する形とすることで、より意見を出しやすくなるのではないかと。	進め方に反映	県民ワークショップにおいて、パーソナリティ調査の結果や関連業務のデータを参加者へ提示する。

No.	資料	項目	有識者意見	対応	対応詳細
11	資料2	ワークショップ・意見聴取の設計について	次回のワークショップは地域の実情を把握している市町村職員に限定したものであり、開催の方法として良いと思う。一方で、市町村職員は決まった時間に勤務し、経済的にも安定していることが見込まれており、偏った意見となる可能性もある。地域の産業や就業形態、就業者の規模などもステークホルダーの観点として重要ではないか。	進め方に反映	市町村職員ワークショップの意見のみを扱うのではなく、県民ワークショップ意見、他の県民参画などの意見も踏まえて交通のあり方を検討する。
12	資料2	ワークショップ・意見聴取の設計について	他事業で実施したPIの活用方法に向けた整理の中で、妊産婦と困窮者は課題の性質が異なるため、並列ではなく分けて整理する必要がある。また、「移動しやすいバリアフリー化」という表現については、専門的な観点から見ても違和感がないよう、表現を精査する必要がある。	資料修正	専門的な観点から見ても違和感がないように文言を今後修正する。
13	資料2	ワークショップ・意見聴取の設計について	交通需要の発生源となる企業側の取組も重要であることから、市町村職員や県民に加え、企業へのヒアリング等を実施することが望ましい。	進め方に反映	企業に対してもヒアリングを実施する
14	資料2	ワークショップ・意見聴取の設計について	昨年度実施していたWebでの意見聴取のように、意見募集窓口を可能な限り継続し、チラシ配布やマスコミ周知なども活用しながら、多様なチャンネルを通じて県民の声を幅広く把握していただきたい。	進め方に反映	ホームページ上に常時意見を投稿できるフォームを今後設置する。
15	資料2	ワークショップ・意見聴取の設計について	離島の意見聴取に向けては、保健師や公共交通担当者などが参加する既存の会議・ネットワークの活用を検討していただきたい。	進め方に反映	離島への意見聴取時に活用を検討する。
16	資料2	交通システムに見られる課題の整理について	交通システムに見られる課題を◎・○・△で優先順位付けすることは難しいのではないかと。課題の優先順位は、意見数ではなく、誰がどこで・何に困っているのか、何を改善したいかを踏まえて整理する必要がある。	進め方に反映	交通システムの課題を優先順位付けするのではなく、誰がどこで何を改善したいの優先順位ではなく、誰がどこで何に困っているかを踏まえた課題・あり方の整理を行う。
17	資料2	交通システムに見られる課題の整理について	課題把握にあたっては、自治体における公共交通会議の開催状況や、国の生活交通確保維持改善事業への取組状況等を整理することで、地域ごとの取組度合いを把握し、住民が抱える課題が何かを見ていくと良いのではないかと。	進め方に反映	No.8に同じ
18	資料2	交通システムに見られる課題の整理について	交通空白解消は、公共交通の有無のみで一律に捉えるのではなく、高齢者や障害者などの個人属性や、通院・買物・通学といった活動目的との関係で生じるものとして整理する必要がある。誰にとって、どのような活動において移動が困難となるのかという視点が重要である。	進め方に反映	No.8に同じ
19	資料2	交通システムに見られる課題の整理について	地域の現状を把握する際には、公共交通のサービスレベルだけでなく、買物施設、学校、病院など生活に必要な施設の立地状況や集積度もあわせて分析する必要がある。施設が徒歩圏内に集積している地域とそうでない地域、また施設が少なくても公共交通によるアクセスが確保されている地域とそうでない地域では課題の性質が異なるため、両者を組み合わせて評価することが重要である。	進め方に反映	No.8に同じ

No.	資料	項目	有識者意見	対応	対応詳細
20	資料2	交通システムに見られる課題の整理について	地域ごとの課題整理にあたっては、個人ごとの詳細なペルソナ設定までは求めないものの、高齢者、障害者、子育て世帯など一定の属性ごとにグループ化し、地域特性と掛け合わせながら課題を把握する視点が必要である。地域類型ごとに、どのような人がどのような移動上の課題を抱えているのかを整理することで、より実態に即した交通空白地域や移動課題の把握につながる。	進め方に反映	参加者が抱える移動に関する課題の背景にある地域の移動環境を深掘できるように問いかけを実施すると共に、ペルソナを活用した県民ワークショップの設計を行う。
21	資料2	交通システムに見られる課題の整理について	ワークショップ参加者の意見を分析する際には、居住地(町丁目レベル)、運転免許や自家用車の保有状況、家族による送迎の有無など、どのような交通環境や移動条件に置かれた人の意見なのかを踏まえることで、地域や属性ごとの課題をよりの確に把握できる。	進め方に反映	No.8に同じ
22	資料2	地域ごとの交通のあり方について	交通手段別にあり方を整理すると、交通手段にとられないソフト面の解決策が抜け落ち、解決策の候補を狭めるおそれがある。課題解決のあり方は、手段別に限定せず幅広く整理する必要があるのではないかな。	進め方に反映	交通のあり方の検討では、交通手段に限らず、交通に求められる役割の観点からあり方を整理することとする。
23	資料2	地域ごとの交通のあり方について	「幹」の交通軸のあり方については、県民意見だけでなく、県として運転手不足や安全確保などの観点も踏まえた専門的な検討により示す必要がある。	進め方に反映	幹・枝となる交通軸については、県民意見に加えて、県として広域行政の立場やこれまでの調査結果等を含め、整理方法を検討する。
24	資料2	地域ごとの交通のあり方について	地域の実情に応じた移動手段の確保については、住民や多様な属性の利用者の意見を踏まえて検討する必要がある。路線バスがない地域でも介護送迎などの移動サービスが存在しており、こうした既存の仕組みを活用しながら、地域全体の移動を支える方策を検討することが重要である。	進め方に反映	ステップ3「具体的な取組の方向性」検討時に反映する。
25	資料2	地域ごとの交通のあり方について	移動の確保は公共交通だけでなく、家族送迎や共助交通など多様な手段を含めて考える必要がある。公的な交通サービスに限定せず、地域や家庭における支え合いも含めた幅広い視点で移動のあり方を整理することが求められる。	進め方に反映	No.22に同じ
26	資料2	地域ごとの交通のあり方について	交通のあり方の整理にあたっては、市町村ごとの個別施策の列挙ではなく、幹・枝・葉の考え方を踏まえながら、地域特性に応じた多様な選択肢を構造的に整理することが重要である。渋滞対策など大量輸送が必要な分野は骨格的な交通軸として位置づけ、その周辺を支える移動手段については多様なオプションを含めて整理する必要がある。	進め方に反映	ステップ2「地域ごとの交通のあり方」は、ネットワークとして地図に可視化を行う。
27	資料2	ビジョンのアウトプットの方向性について	地域ごとに課題や必要な施策が異なる中で、それらをビジョンにどのように反映するのか整理が必要である。特にネットワーク概略図については、実現可能性やコスト面まで考慮した具体的な計画として示すのか、住民意見を踏まえて将来の大きな方向性を示すものとするのか、その位置づけを明確にする必要がある。	進め方に反映	ステップ2のアウトプットとして示す「交通のあり方」やネットワーク概略図は、県民意見を踏まえ、地域ごとの将来の大きな方向性を示すものとして位置づける。

No.	資料	項目	有識者意見	対応	対応詳細
28	資料2	ビジョンのアウトプットの方向性について	沖縄はレンタカー観光による渋滞への影響を踏まえ、バス等の二次交通を利用した場合の所要時間短縮効果などが見える化し、観光客を公共交通へ誘導する仕掛けづくりを検討する必要がある。	進め方に反映	No.24に同じ。
29	資料2	ビジョンのアウトプットの方向性について	ビジョンの実現には行政だけでなく県民の協力も不可欠であることから、県民が移動に関する課題を自分ごととして捉え、行動変容につながるような視点を盛り込む必要がある。	進め方に反映	No.24に同じ。